看護医療
類型通信

つながり

令和８年　11 月 18 日（水）　第 20 号
尼崎小田高校　看護医療・健康類型
西口　諒

「ありがとう」という言葉に「ありがとう」と思う。

「すべての子どもが、食事や人のつながりを持てる地域にしたい。」

これを合言葉に 10 月 27 日(火)に JR 尼崎駅前にて、子ども食堂支援に向けた街頭募金の呼びかけを行いました。看護医療･健康類型の 2 年生で、子どもの貧困について探究を行う 3 名の生徒が中心となって他の生徒にも呼びかけ、当日は類型の 1 年生 12 名、3 年生 5 名も加わり、総勢 20 名で募金活動を行いました。今回、ボランティアに初めて参加する生徒もおり、緊張しながら約 2 時間、声を出して募金を呼びかけました。市民の方が募金してくださる際に*「ありがとう。頑張って！」「私の母校です。応援しています。」「看護医療の卒業生です」「子どもは大切やんね」*と声をかけてくださり、その言葉に勇気を貰いました。またある生徒が*「こんなに大きな声を出したことないです。」*と話してくれたのも印象的です。学校の外に出て、他者と関わることで「新しい自分に出会う学び」が見られました。

2 時間で総額 13 万円を超える募金が集まり、「**高校生の力**」と「**地域の温かさ**」を改めて感じることができました。ある生徒が*「たくさんの市民の方に『ありがとうね』と声をかけていただいた。でも募金して下さって、こちらこそ『ありがとうございます』と心から思いました。ありがとうと言い合えるのが嬉しかった」*と話してくれました。

「人」が「人」のために行動をすることで、「ありがとう」という言葉に「ありがとう」と思う。

地域の目に見えないつながりが高校生を通じて、広がっていました。生徒の皆、ありがとうございました！また市民の皆様、後日別紙にて募金額と領収書を掲載させていただきます。ご協力、ありがとうございました。









担当者のつぶやき

【 自分に見えているものはほんの一部分なのかもしれない。 】

生徒の皆さんと関わらせて貰う中でそんなことを最近よく思います。地域活動や部活動、授業などで、「私達の想像を超えた姿」を高校生は、見せてくれます。悩み、迷い、時に立ち止まりながらも、人と関わり、新しい自分に出会い、少しずつ前進していく姿に勇気を貰っています。次号にて防災、在宅班の活動も紹介します！乞うご期待！文責　西口　諒

すべての子どもが、家庭の経済状況にかかわらず、食事や人とのつながりを持てる地域をつくりたいので協力してください

子どもたちの笑顔のために



子どもの貧困と子ども食堂の現在

日本の子どもの貧困は、全体としては改善傾向にあります。
子どもの相対的貧困率は2012年の16.3%から、
2021年には11.5%、2024年には11.0%まで低下しました。
しかし、大人が1人の子育て世帯の貧困率は44.7%と
依然として高く、家庭状況による格差が大きく残っています。

一方、こども食堂は全国で急速に増え、
2025年度には12,602か所となりました。
現在のこども食堂は、経済的に困難な家庭への食事支援だけでなく、孤食を防ぎ、子どもの居場所をつくり、地域の人々とつながる場としても大切な役割を担っています。
貧困率が改善する一方で、食や孤立など、子どもを取り巻く課題は依然として残っています。

子どもの相対的貧困率

2012年	2021年	2024年
16.3% →	11.5% →	11.0%

大人が1人の子育て世帯の貧困率



44.7%

こども食堂の数（2025年度）

12,602か所

食は、生きる力。
つながりは、子どもの未来をひらく。

子ども食堂へ募金のご協力をお願いします

皆さまからお寄せいただいた募金は、本校生がボランティアとして活動している「つどい場けあ・わーく」と、「尼崎子ども食堂ネットワーク」への支援に役立てます。

- 食事で元気を届ける
- 居場所で安心をつくる
- 地域のつながりを広げる
- 子どもたちの未来を応援する

【募金先】

- 「つどい場けあ・わーく」
  （本校生がボランティアに通う子ども食堂）
- 尼崎子ども食堂ネットワーク

【連絡先】

〒660－0802
尼崎市長洲中通２丁目17番46号
兵庫県立尼崎小田高等学校
看護医療・健康類型
電話　06－6488－5335
FAX　06－6488－5337

みんなで子どもたちの笑顔を支えよう

